

## I G S 理事會報告

IGS 理事 赤木俊允

1993年のIGS理事會は10月19、20の両日、イタリア・ミラノ市、ENEL社の會議室において行われた。出席者は次の通りである。

R. K. Rowe 会長、R. Floss 副会長、J-P. Giroud 前会長、W. Voskamp 事務局長、P. Stevenson 經理担当理事の各役員、および T. Akagi, R. J. Bathurst, D. Cazuffi, B. R. Christopher, M. Fukuoka, J. P. Gourc, R. A. Jewell, C. J. F. P. Jones, C. Lawson, S. D. Ramaswamy、の各理事、総計15名。  
D. Fayoux, D. Price の両理事は欠席。

主な議題およびその審議結果は次の通りである。

1) R. M. Rigo, F. Gousse, A. Arman の3理事は辞任、J. F. Gourc 教授は co-option 制による理事に任命、の件が承認された。

2) 前回理事會(1992年11月9-10日、於福岡)の議事録の検討・承認。

3) ジオシンセティックスに関する初歩的・基本的な事項をまとめて小冊子を作成し、PR用に部外者や初心者に配布する。基本的には技術委員會(Technical Committee)がその原稿の作成に当り、最終的には Bathurst 理事(IGS News 編集長)がこれを編集し、来年9月の總會までに完成させ配布できるようにする。

4) 来年9月にシンガポールで開催する總會(Ordinary General Assembly)の議事については、詳細を役員會に一任し、役員會はシンガポールの第5回國際會議(5IGC)組織委員會と協議の上、決定することを承認した。また、總會における投票には投票用の會員証(voting identification card)の使用を検討することとなった。

5) 来年の總會では會費の値上げは議題としない予定。

6) 1994年には新會長を含む8人の新理事を選挙することを確認。本年11月発行のIGS Newsにより、會長・理事に立候補する者は来年3月1日までに届け出るよう広報する。6月には郵便投票のための選挙用紙を全會員に発送するが、その時には同時に、学会名を國際ジオテクスタイル学会から國際ジオシンセティックス学会に変更する理事會案に対して賛否を問うことになる。郵便投票の締切日は8月1日とする。

7) 經理担当理事の報告として、1992年度の會計は公認會計士(米国のCPA)による略式監査(review)が実施されその報告書が提出された。またその會計報告が検討され承認された。これによれば、収入決算は103,940USドル、支出決算は84,550USドルで、19,390USドルの黒字となっている。

8) 1993年度の予算執行は大約順調に進行しているとの報告があり、これを了承した。1994年度の予算案が検討され、若干の修正が施された後、収入156,600USドル、支出151,250USドルと決定された。

9) 通常予算とは別に、最終額を10万USDとする財政予備基金を設けることが昨年の理事会で決定されたが、現在75,000USDが別枠で確保されている。そのうち、50,000USDが債券、25,000USDが預金の形で投資されており、利息は総額が10万USDになるまで基金に組み込まれることになっている。また、この基金の運営については、会長、経理担当理事、公認会計士等を含む管理委員会を設けてこれに当らせることになった。

10) 1993年10月現在、IGSが保有する総資産額は、176,000USDである。

11) 1994年にはCPAによる正式監査(audit)を実施することとする。IGSの会計検査には、向こう4年間 Messrs. Schneider, Myles and Warner という名称の法人に委せることに決定。

12) 昨年の理事会でIGSの役員および理事の言動に対する免責保険を購入することが決定されたが、その後複数の保険会社と折衝した結果、理事会としてはその年額費用を増額して最大3,000USDまで認めることを了承した。

13) 会員名簿を編纂中であり、年末には発刊できる見込み。

14) IGSの事務管理体制の継続性を強化するために、以下のように内規の変更を提案し、次回の総会に諮り決定することとなった。(9.02.02)経理担当理事は、理事会が理事の中から選出し、その任期は国際会議と同時に開催される次期総会までとする。(9.02.04)事務局長は、理事会が理事の中から選出し、その任期は国際会議と同時に開催される次期総会までとする。理事会による選出は国際会議の終了前に行われることとする。これに代わるものとして、総会は有給の事務局長を任命することができる。この場合の事務局長は投票権を持たない。事務局長の任免は、理事会における2/3の多数決による。有給の事務局長の雇用条件は、理事会が決定する。



理事会出席者15名、初日を終えて



左から、ロウ会長、福岡理事、ジュエル理事、フォスキャンプ事務局長、  
背後で後向きに見えるのはスチーブソン経理事

15) 役員会は、IGSの事務局体制の変更を考慮中である。IGSの恒常的な事務局を設け、全ての事務が取り扱えるようにし、役員の中の一人がこの事務局の管理をするようにしたいと考えている。

16) 第5回国際会議(1994年9月5-9日、於シンガポール)の準備状況について、ラマスワミ理事から以下の報告があり、これを了承した。 a) 会議と展示会とは同じ会場で開催する。 b) 現在のところ、法人会員を対象に約38%の展示スペースが契約済みである。今後非会員法人に対するPRを開始する。 c) 理事会開催の直前にミラノにおいて論文審査委員会が開催され、予備審査済みの要約を詳細に検討して、採択論文の決定を行った。提出された要約は43ヶ国より総数537編、うち口頭発表のために210編、ポスター・セッションのために112編の採用が決定された。 d) 口頭発表、ポスター・セッションの論文は、全く同格のものとして取り扱われ論文集に掲載される。論文はすべて1編につき4ページとする。口頭発表は1編10分とする。 e) 700-800人の参加者を予想しているが、最高1200名までは受入可能なので、今後大いにPR活動を展開する予定である。 f) 1994年1月に第2ブレイクを発行する。 g) 2種類の論文提出締切日を設け、最初の締切日までに提出された論文に対しては、英語あるいは内容の修正・編集を行うことができるようにする。 h) 会議登録費については、組織委の定める期日の前後で、IGS会員に対してはそれぞれ680USドル、720USドル、非会員に対してはそれぞれ760USドル、800USドル程度とする。登録費には会期中の全昼食、コーヒブレイク、晩餐会の費用を含むものとする。



左から、バタースト、カズフィ、グルクの各理事、手前にロウ会長とその背後に重なっているのはジルー前会長、右端は手前に福岡理事とその背後にスチーブンスン経理事担当理事

[注：提出された要約の予備審査は、組織委員会が依頼した19ヶ国45名の著名な学識経験者によって実施された。1編につき3名の審査員が割り当てられ評点が付けられたが、評価が大きく割れたものも多かった。これを受けて論文審査委員会は、ミラノで会合を持ち10月16-18日の3日間にわたって1編毎に再評価を行い、全体のバランスを考慮して採用論文を決定した。なお、論文審査委員会は組織委員会とIGS役員会とによって任命された5名(T. Akagi, J-P Gourc, R. A. Jewell, R. M. Koerner, G. P. Karunaratne)により構成され、組織委からの S. H. Chew, R. S. Douglas 両氏が同席してその間の事務処理に当たった。

17) 第6回国際会議については、北米ジオシンセティックス学会(NAGS)から正式な招聘の提案が示され、1998年3月中旬、米国ワシントン市で開催されることとなった。理事会はこれを承認し、今後の計画の詳細については、ロウ会長とジルー前会長とにIGSを代表して検討し承認することを委任することとした。

18) IGS内にヨーロッパ地域活動委員会(European Activities Committee)を設置することを決定、ジョーンズ理事を委員長に任命した。この委員会の目的はヨーロッパ地域会議の開催準備を行うなど、地域内のIGS活動を調整し促進することである。

19) 広報委員会(Promotion Committee)報告：a) 2種類のパンフレットを製作し、各支部と全ての理事に配布した。 b) 米国土木学会(ASCE)は現在、土木工学関

連のトピックスについてビデオ製作を企画しているが、IGSに対して、そのうちの2巻についての協力を要請してきている。一つはランドフィル関係のジオシンセティックスをテーマとするもの、もう一つは道路関係のジオシンセティックスをテーマとするものである。IGSとしては現在、いくつかの法人会員や関連会社に対しこの企画に参加しスポンサーになってくれるよう働きかけているが、既に相当数の法人から好意的な反応を得ている。これらジオシンセティックス関係のビデオ製作の顧問としては、ジルー・フルーエ両氏とカーナー教授が当ることになっている。ビデオの製作は1994年春に開始される予定。c) 来年9月のシンガポール会議迄にIGSのピンを製作し、全会員に配布する予定。d) シンガポール会議の展示場にIGSのブースを出展する計画およびその内容についての説明。

20) 法人会員委員会 (Corporate Member Committee) : 第5回国際会議をPRするための小さなステッカーを製作し、来年早々法人会員および理事に配布して、郵便や書類に張付けて使ってもらう。

21) 韓国、フランス、イタリー、ドイツ、ラテンアメリカの各新支部が承認された。これらの支部の承認に当っては、役員会が各支部の内規をチェックし、各支部とその国の関連学会との関係がIGSへの自由な入会を妨げるものではないという点を重視した。この点につき、韓国支部の内規にはIGS支部会員は韓国地盤工学会の会員でなければならない、と明記してあるのは問題だと論議が出された。これについてはロウ会長が韓国支部に対して、有資格者ならば地盤工学会に属していなくともIGS会員になれるような内規であることを条件に新支部を承認することを知らせると共に、その様な主旨にかなうよう現在の表現の変更を勧告することとなった。

22) 表彰委員会 (Awards Committee) : a) 次の新メンバー5名が指名され承認された。すなわち、den Hoedt (The Netherlands), Akagi (Japan), Christopher (U.S.A.), Gartung (Germany), Lafleur (Canada) の5名で、den Hoedt氏を委員長に指名。これらの委員に支障がある場合、会長は専門分野と地域配分を考慮し、次のメンバーからその代替を選ぶこととする。すなわち、Corbet, Fluett, Fukuoka, Holtz, Ingold, McGown, Rigo, Sembenelli, Wilmers の9名。b) まず、第4回国際会議の論文集およびIGS学会誌 G & G (Geotextiles & Geomembranes) を調べて受賞候補者を探すことから始めることに決定。前者の担当は、Giroud, Bathurst の両氏、後者の担当は、Ingold, Gourc の両氏とし、来年3月1日迄に候補者を推薦することとする。c) 委員会の開催費・旅費として、7500USドルを予算化する。d) IGSに対する顕著な功績を表彰するものとして、IGSブランク (銘板) を作製し、T. Ingold氏 (U. K.) に献呈することに決定。氏はこの10年間、学会誌 G & G の編集長としてその高いレベルを確立し斯界に多大の貢献をもたらしたことが評価された。e) Gert den Hoedt氏 (The Netherlands) を名誉会員に推挙することに決定。

23) IGS会員が他の会員に対して非倫理的行為を行ったとして苦情が持ち出された場合には、IGS理事会はこれに対して審判する機能を持つべきだ、との要請が、最近のある事件を契機として、ある法人会員から提議されている。本件は法人会員間のトラブルであるので、まず法人会員委員会で事件の詳細を検討することとし、さらに調査し審議することが必要と判断された場合には、両法人会員およびIGSとは無関係の第三者を新たに法人会員委員会の委員長として選出して、トラブルの審理・解決に当らせる、という案を次回の法人会員委員会の議題とすることに決定した。理事会は、本件に対しては直接の関与を避けるべきであるとの結論に達した。

24) 一般に IGS 内の委員会の委員長が、外部に対し IGS を代表して手紙や文書を出す場合には、少なくとも役員の一人在これを検討した後に出すことを原則とする。

[注：上記の 23)、24) は理事会の法的責任を追求されることのないよう、との配慮である。]

25) ジオシンセティックス関連の術語の使用については、完全に自由でいかなる制限も受けるものではない、との方針を以下のような公式声明ととして表明することに決定した。「IGS は、ジオシンセティックス、ジオテキスタイル、ジオメンブレンおよび関連製品の全ての材料、適用法に関する一般的な術語の使用については、どんな言語においても、全く自由でいかなる制限をも受けるものではないこと、またこのように自由な使用を妨げるいかなる行為をも容認するものではない。」

[注：過去に於て、某国のある会社が、ジオテキスタイルという表現を商標化し、他社にその使用を禁ずる行為に出るといふ事件が発生した。これは、ジルー前会長の長年にわたる努力によりほぼ解決したが、上記の声明はこのような事件の再発を防止しようとするものである。]

26) 教育委員会 (Education Committee) : a) イタリア語で作成された新会員のための紹介用小冊子の英訳が今回完成したので、IGS から出版することに決定。この英訳原稿に他の興味ある資料などを加え、Bathurst IGS News 編集委員長が編集し、IGS News の増補版として発行、全会員に配布する。 b) 本委員会の委員長は、Cazzuffi 氏から Gourc 氏に交替し、Cazzuffi 氏は規準化委員会の委員長に就任。

27) 技術委員会 (Technical Committee) : a) 各国における製造・設計・施工に関する実施規定 (Code of Practice) のリスト・目録作成のために、各国支部に対し情報収集の要請を送付しているところである。これらについてのデータベースを構築し、来年 3 月には完成の予定。 b) ジオシンセティックスに関する表記用の統一記号やシン



左から、ジョーンズ、ローソン、クリストファーの各理事、フロス副会長、ラマスワミ理事

ボルの原案が理事会のメンバーによって検討されたので、本年11月中には出版し、第5回国際会議の論文作成の規準とする。c) 本委員会の将来課題として、i) 各国において規準制定のために設けられたグループに対して、IGSとしてより積極的な役割を果たせるような体制をとる。ii) イタリアで作成されたような技術情報冊子やその他の関連レポートをレビューする。iii) 国際会議に提出される論文の基準となるよう、論文の内容、要約の書き方等について、基本ルールを定める。iv) キーワードのリストを作成する。

28) 出版委員会 (Publications Committee) : a) 理事会としては常に、IGSの学会誌は高いレベルの良質な内容を有し、なおかつ可能な限り低価格で会員に提供できることを目標としている。この点に関し、現在の学会誌であるG & G (Geotextiles & Geomembranes) 誌の発行元であるエルスピア (Elsevier) 社とは、特に講読料について幾度も協議を重ねてきた。b) 最近IFA I (Industrial Fabrics Association International) はジオシンセティックス関連の新しい論文報告集を発行する方針を決定したが、これをIGSの学会誌にして貰いたいとの意向を出してきている。また英国のThomas Telford 社も同様な意向を示している。c) 現在のところ、学会誌について今後の方針を確定するに足りる十分な情報を入手してはいないが、将来の方針として次のような二つの選択肢が考えられる。i) IGSは現在の出版元と協力関係を保ちながら、IGSとしてのコントロールを最大限に発揮できるように条件の改善を計る。ii) 新出版元と協力関係を結び、新学会誌をできるだけ低価格に抑えなおかつ高いレベルが維持できるよう、最大限の影響力を行使する。d) ジルー前会長の発言によれば、もし新学会誌が誕生し、現在G & G 誌の編集長であるインゴールド氏が新学会誌の編集長になるような事態となれば、現在G & G 誌編集会議の議長であるジルー氏も辞任することになるであろうとの由。e) IGSはエルスピア社に対し、現状に関しては重大な関心を抱いている旨警告することとし、会長と委員長とがその任に当ることとなった。f) 役員会と本委員会とは、今後のIGS学会誌の出版元を決めるに当っては、内容の質と価格の点で最高の条件を満たすものであることを重視することとし、委員長であるジョーンズ理事がロウ会長と連携して今後の交渉に当ることとなった。g) 上記の件につき、重大な決定を要する事態となった場合は、役員会が原案を作成し、全理事による郵便投票で最終決定を行うこととする。

29) ジルー前会長から、Geosynthetic Bibliography と題するジオシンセティックス関連の文献リストの第1巻が完成し、IGSの公認出版物として近々出版の予定との報告。第2巻刷り上がりの一部も回覧された。ロウ会長はIGSを代表して、編集長であるジルー氏に対しその労をねぎらい公式に感謝の意を表明した。

30) 第5回国際会議 (1994年9月5-9日) の直前およびその期間中に、シンガポールにおいて開催されるIGS総会、理事会、役員会の日時は以下のように決定された。

9月3日 (土)	9 -	役員会
9月4日 (日)	9 - 18	理事会
9月6日 (火)	14 - 16	総会 (新会長・新理事の選出)
9月7日 (水)	13 - 14	理事会 (事務局長・経理担当理事の選出)
9月8日 (木)	13 -	役員会
9月9日 (金)	7 - 10	理事会

前回理事会に関連する項目については、本誌1992年12月号 (pp. 22-28) に掲載されているIGS理事会報告を参照されたい。 (以上)